



男女で異なる?!

性差から考える災害対策

新潟大学大学院保健学研究科GSH研究実践センターは、昨年度より、市民公開講座「男女で異なる！」シリーズを通じて、保健学研究の成果を地域の方々にお届けしてきました。

本年度の第2回は、男女の違いに注目した災害対策です。災害対策や被災者支援において、男女の違いに配慮することが求められています。男性と女性の身体とこころ、世代や生活スタイル…、それぞれのニーズは何か、どんなところに配慮すればよいのかを、保健学の観点から、被災者支援に取り組んできた本学教員がお話します。

非常時にご自身や家族の健康をどう守っていくのかに関心のある方、被災者支援にかかわる方、ご一緒に考えてみませんか。

新潟大学医学部保健学科 看護学専攻
新潟大学災害・復興科学研究所兼務教員

准教授 齋藤 君枝

日時 2012年10月27日(土) 10:00 ~ 12:00 (受付開始 9:30)

会場 新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」(新潟駅南口、徒歩3分)



新潟市中央区笹口1-1 プラカ1 2階

- 参加費無料
- 募集人数 40名
- 事前申し込み要
電話/ファクス/メールにて
※当日参加も可能ですが、
定員を超えた場合、入場を
お断りすることがあります。

○ 一時保育、聴覚障がいへの対応を必要とする方は、10月17日までにご連絡ください。

申し込み・問い合わせ先 月~金(祝日を除く) 9:00~17:00

新潟大学大学院保健学研究科GSH研究実践センター(西原)

電話・fax 025-227-2363 E-mail gsh-center@clg.niigata-u.ac.jp

後援 新潟市



性差保健は

…男性と女性の健やかライフのキーワード…

「性差保健」(GSH)は、男女の身体の違いとともにライフスタイルや生活の場、伝統や慣習なども考慮に入れて、心とからだのトータルな健康支援を行い、保健学を推進することを目的とする研究・活動です。

新潟大学大学院保健学研究科は、性差保健の研究・推進を通じて地域貢献を行うことをめざし「GSH研究実践センター」を設立いたしました。

GSH研究実践センターでは、一般市民の方に向けた保健サービスとして、「女性と男性のこころとからだ・性の相談活動」を実施し、市民公開講座やシンポジウムを開催しています。

また、地元の企業と共同で、性差を考慮した医療や看護の用品・機器・技術開発研究を展開し、行政や保健センター、市民団体などとも連携して、男性も女性もいきいきと健やかに暮らせる地域づくりをめざしています。

GSH 研究実践センター組織図

